第４回総合計画審議会（基本目標５部会）

― 議事録（要旨）―

■日時令和６年 11 月 13 日（水）10：10～
■場所糸島市役所　会議室４０１

（出席委員）

三井部会長、野村委員、園田委員、外山委員、波多江委員、松隈委員、能本委員

（事務局）

企画秘書課 吉村課長

【議事概要】

■　部会

３　協議

➢　基本目標５（ブランド糸島で活気あふれるまちづくり）

● 後期基本計画（素案）について、施策ごとに事務局から説明
■：委員、〇：事務局

・進行を三井部会長へ
以下、三井部会長による議事進行

➢　政策（１）農林水産業の振興　施策①農林水産業の活性化

■　外山委員

海水温が高くなっており、夏場に鯛などが獲れない話も聞いている。稚魚などを放流しているが、海水温が高いと生態系が変わってきていると思う。

毎年同じ取り組みだけではなく、もう少し変わったものを入れていかないと厳しいのではないかと思う。

■　松隈委員

確かに 40 年前から同じ状況である。生態系の変化については、目に見えた効果は感じていないが、やめてしまうと終わってしまうので、続けていくことは良いことと考える。

稚貝の放流は全国で行っているが、効果があるとは聞こえてこない。毎年稚貝の放流を行うことを基本としつつ、その他に毎年違う取り組みをしている。例えばコンクリートブロックを沈めたりしているが、直接的には身を結んでないと思う。

■　外山委員

近畿大学がマグロを育てたと聞いたことがあるが、そのようなことについてはどうなのか。

■　松隈委員

資料の１番下に「水産養殖の新規事業の補助」とあるが、外的生物といわれるウニが海藻を食べて漁場を荒らしてしまう状況であった。今まではウニを殺していたが、ウニを育てれば商品として売れる実績もある。

実際に漁協の組合員でも陸上で養殖したいという人もいるが、ものすごくお金がかかる。今はウニを小規模で養殖しているが、販路がカキ小屋しかない。市場に持っていくと、どうしても味が落ちてしまうため、「こうやって育ったウニです。」ということを直接言っていかなければ、買い手がつかない。

販路の問題と陸上で行うのであれば費用の問題がある。ただし養殖に関して漁師さんたちはやる気はある。

○　事務局

その辺は、主な取組（５）の「漁港・漁場施設、漁業生産施設の計画的な整備」において、漁協と話し合いながら進めていく形になると思う。

■　外山委員

販路の拡大について市は一緒に行っていないのか。

○　事務局

漁協がメインにとなるが、鰆のイベントなど、色々なイベントを協力して行っている。

■　野村委員

農林水産業におけるAIやITの活用方法の１つとして、気候の予報精度を高めるということがある。ビッグデータを解析させることになるが、農林水産業以上に気候予測に関心が高い産業として、発電、電力業界がある。温度が１度上がると電力需要がすごく変わる世界なので、地場の電力会社や気候変動に関する関心が高く、自家発電を行っている人たちなどとパートナリングしていくことが必要と思う。糸島市単独で行うには限界がある。電力会社は、発電や電力事業以外で利益を出していく目標も掲げているため、そういう意味では民間と連携したAIやITの活用は、ウィン・ウィンとなる。電力会社は、かなり研究をしているので、ディープラーニングや精度の高いモデルを作っており、それらのいいところを取り入れていく発想も良いのではないかと思う。

○　事務局

素案では、現状と課題で、温暖化を出しており、何らかの取組を進める必要がある。市だけではなく民間企業と協力しながら対策していくことは、1つの取組みになっていくかもしれない。

■　野村委員

例えば林業は、怪我もあり安全管理が大変な産業であると思う。ドローンを飛ばして地質解析や下草の状況などをチェックし、草刈りなどを行うことができる。これについても電力会社が研究開発しており、この技術の適用先を探している。例えば糸島市として何か研究することは考えているのか。

○　事務局

民間企業と連携して、先進技術を活用しながら現状・課題の解決策を見つけていくといった視点は持っている。

■　波多江委員

農業分野でも、衛星から１つの田んぼを見て可閉式堰などの技術も入ってきているが、その機械を入れようとすればお金がかかってしまう。市でも新技術に対する助成を考えてほしい。

■　三井部会長

現状、新技術に対しての助成はあるのか。

○　事務局

国庫補助を活用して、スマート農業の機械導入などを行っているが、あくまで農業者の経営方針に基づいた導入ということになる。また、調査研究事業などは行ってはいる。

■　能本委員

数年前、糸島の農業の調査事業として、私が農業従事者から話しを聞いた。その際に、スマート農業など、色々なヒアリングを行ったが、実際には、農家は日々の運転資金でご苦労されている。スマート農業は便利だと分かっていても、経営に取り入れて、どのように活用して、どのぐらい儲かるかなど費用対効果のところが実際には懐疑的に感じているため、導入が進んでいないと考える。

主な取組（２）やDXの部分は、市全体の大きい話と小さい農家の話も含まれていると思う。例えば経営診断やクラウドを活用して、日々の業務効率の部分などの段階・グラデーションが、農業についてはかなり違っている。どのあたりに力を入れていくかという検討があっていいと思う。そういった書き分けがないと、1台1500万や2000万円かかる高性能機械や自動運転などを、現実的に早急に導入できるものではない。そういった部分も丁寧に書き込んだ方が良いと感じる。

■　三井部会長

部会の意見として、１つ目は水産業だけではないが、現状40年間続いている取組みをやめることは、効果測定が明確にできていないので懸念は残る。

２つ目に、新しいことに取組む際は、販路や費用の問題があるため、拠点があると新規事業のサポートができるのではないか考える。

３つ目は、IoTやAIの活用などの分野に関して、企業との連携ができる窓口の明確化や新技術に対しての助成が、もう少し盛り込まれれば分かりやすいと考える。それに加えて、日々の業務の効率化など、何かを導入した時の効果や経営判断のサポートも盛り込まれればいいのではないかと考える。

以上を部会の意見としてまとめさせていただければと思う。

➢　**政策（１）農林水産業の振興　施策②農林水産物のブランド強化**

■　野村委員

イメージとしては、商品化して流通させるというより、鮮度の高い一次産品を糸島で楽しんでもらうことが基本モデルのような気がする。それを前提にして、どのようにブランド力を高めていく

かが重要だと思う。糸島に来て食べてもらうとすると、大人はやはりお酒が飲みたくなると思う。お酒を飲むことになると誰が運転するといった話になる。牡蠣小屋などでも誰が運転するかという話になり、宿泊施設が圧倒的に足りないというところにフォーカスしないといけない。

○　事務局

観光の施策のところでも移動手段の問題が出てくる。宿泊については、現状として糸島に来ても福岡市で泊まるというような形となっている。観光担当も宿泊して滞在時間を伸ばして、夜お酒を飲んでもらって消費を増やすということを考えている。ホテルについては、民間の進出であるため、思ったように取り組みが進まないところもある。

■　外山委員

市街化調整区域の関係で、そもそも開発ができないところがたくさんある。例えば志摩地区では建てられないということもあり、もう少し１歩踏み込んでいく必要があると考える。

県がダメだから、国がダメだからということでは何も進めていけないと思う。良いか悪いかなど色々な考え方はあると思うが、福岡市側は積極的な開発をしている。福岡市から糸島市に入ったら、まちが変わったぐらいの感じになっているため、整合性を取っていく必要があるのではないか。

○　事務局

市街化調整区域については、いろんな法規制がある中で担当課も苦慮しながら行っているところではある。

■　三井部会長

この議論は、毎回上がっているように感じている。福岡市がどうやっているかなどの情報を共有してもらえると、その先のステップを考えるいい材料になると思う。

○　事務局

担当部署ではないため、福岡市と糸島市のやり方の違いまでは把握していない。

■　波多江委員

なかなか市の計画には盛り込めないと思うが、高付加価値、収益の向上について、実際のコストが上がっている中で「これだけコストが上がっていますよ」と皆さんに知って頂きたいと思っている。

農産物は肥料価格だけでも５年前から 1.45 倍になっていつが、価格としては 10%上がっている状況である。現在、市内の神社で花手水などの活動を行っているが、糸島市の中でもっとＰＲできる場を作っていただければと思う。

■　園田委員

SNS の効果を数値化しているのか。インスタグラム等でも PR を行っていると思うが、実際のところ、それを見てどれくらい興味を持ってある方がいるのかが気になる。

商品づくりをするにしても、その商品に向いている方の年代や属性によってターゲッティングが変わってくる。数値化した情報があれば考える材料になってくるのではないかと思う。

○　事務局

担当部署で閲覧数などの数値は把握していると思うが、どの程度活用しているかまでは把握していない。

■　三井部会長

本部会として、農林水産物のブランド強化について、１つ目は、現地での消費を第一義的に考えなければいけないというところである。飲酒を伴う可能性が高くなってくると宿泊施設や糸島市でどのように滞在してもらうかということが考える必要があると思われる。

２つ目は、志摩地区に代表されるような、規制によって開発が進みにくくなっている地域が見受けられる一方で福岡市は、同じような地区を開発しているにもかかわらず開発ができているという状況がある。そこの部分をどう打破していくかというところも検討に加えてほしいという部分である。３つ目はブランド品を産出する側のコスト増についての市場の理解ということを求めていかないということやPRの機会が必要なことである。従事されている方々以外のリソースも活用しながら、PRできる場の提供を進めていければよいのではと考える。あわせて効果検証の部分についてもう少し開示できればいいのではないかというところである。それらを部会の意見としてまとめていきたいと思う。

○　事務局

市街化調整区域の件は、土地利用などの項目で取り扱うことになるかもしれない。

■　三井部会長

こちらの部会からの意見としてあげてもよいのか。

○　事務局

構わない。

➢　**政策（１）農林水産業の振興　施策③担い手の育成と確保**

■　波多江委員

新規就農者の育成に取り組んでいるが、新規就農者が規模拡大やハウスを建てることは資金的に難しい面がある。空きハウスを借りることについては、どうしても地元の方へ先に話がいく現状がある。そのため、新規就農者には地元の方と極力接点を持つように話をしている。就農はしても、その後、本当の経営体として成り立つまでが難しい状況がある。

毎年、農協で２人程度、研修を受け入れている。就農相談会は県でも行っており、糸島は魅力があり多く相談が来ている状況である。

■　能本委員

おそらく新規就農の問い合わせ数は、福岡県内では桁違いに糸島が多く、対応が大変なのではないかと思う。糸島はイメージがよくて、ある意味、来る人を選べるというのは、他の地域の農業とはちょっと違う感触がある。少し言葉としては書きにくいかもしれないが、そこをどう活かしていくかという視点を記載していくことが重要かもしれない。

○　事務局

参考数値ではあるが、市で把握している令和５年度の新規就農者数が１年間で 17 名、相談件数は 90 件。令和４年度では新規就農者は 25 名となっており、10 名以上の就農が毎年続いているので、他の自治体に比べればやはり多い。

■　松隈委員

漁業も県から紹介があるが、なかなか続かない。国の方で研修費の助成とかがあるが、それが終わってしまうと、雇い入れている方の漁師の経営が圧迫されている。

漁師は、漁業は大変であるため、継がなくてもよいと考えている人が多く、後継者不足というか、したくない、させたくないという思いもあると思う。

■　園田委員

農家であれば土地が絡んでくるので、尚更難しくなってくると思う。

■　波多江委員

土地が絡んで難しいけれど、今は、山付き土地が余って、作り手がいなくなる状況がある。その問題も少し引っかかる。

■　三井部会長

漁場には、この人はこの区画みたいなものがあるのか。

■　松隈委員

養殖をするときは区画が必要だが、鰆などの釣りは自由漁業となるため資格さえ持っていればできる。ただ、資格は漁業においては間口が狭い。組合員がいなかったり、２年間の修行が耐えられなかったりする人も多い。

■　能本委員

農業、林業、漁業については、環境や担い手などを一緒にすることはできない。それぞれ違うので、少し書き分けた方がよいと考える。担い手不足などの課題は共通であり、方針の中は一緒に書いても、文章を書き加える段階で違いを明確にした方がよいと考える。

○　事務局

基本構想の取りまとめ方として、農業の振興、林業の振興、水産業の振興というまとめ方ではなくて、農林水産業を一次産業という形でまとめている。それに応じて施策、主な取り組みも第一次産業についての書き方になってきている。そのため、次の段階での実施計画では、３つに分けていく必要があると思う。第３次長期総合計画の策定の際に体系として検討したいと考える。

■　三井部会長

本部会としては、まず１つ目が新規就農相談会等の数値の多さということがあったため、就農してからのフォローも大事であるが、就農希望者を間口やフォローについての施策も盛り込めればと考える。

２つ目は、農業、漁業が持っている課題感も違うため、包括的にするにしても、課題感を把握した上で施策を練っていくことの重要さというのがあるのではないかと考える。

また、地元との積極的な関わり等々は書いているものの、農業、漁業は続かないということが大きな課題としてあると思う。

➢ **政策（１）農林水産業の振興　施策④持続可能な農村環境づくり**

■　野村委員

持続可能な主体を確保するには、やはり個人や世帯で取り組むより法人化が不可欠ではないかなと思う。先ほど話があった通り、一次産業に関心を示している若者が一定数いるというのは心強い話だと思う。多分お金目当てではなく、社会的な意義や手応えなどの部分を目指していると思うので、そこに答えていく必要があると考える。

一方で、若者たちの関心事として、お金も大事であるが、ワークライフバランス、要するにプライベートも大事にしたいという価値観はかなり浸透していると思う。旅行に行けないことや、予定が組めないことなどが一次産業の大変な面であると思う。例えばシフト制などは、法人であれば理論上は可能だと思うため、そのあたりにも配慮し、時代の変化に合わせて考えていくべきと思う。

■　波多江委員

例えば農地を維持していこうとすれば、やはり法人化して大規模化して集約をしていくということが１番大事なところにはなってくると思う。

一方で、水路の管理などは、どうしてもマンパワーがなければ、なかなかできないなと思う。そのあたりの対策が後期基本計画でできれば思う。

■　能本委員

この部分が、大学と連携して、持続可能性をどう担保していくか、あるいは儲けなくても地域として仕組み作っていけるかなど、実証実験の場として糸島はふさわしいと思っている。中山間地域や海、平地もある。いろんな条件が揃っていて、かつ九州大学があるので、水路の管理など、今まで人の手でやっていたところにいかに IT を組み込ませて、人手をかけなくできるかなど、真剣に取り組める土壌があると思う。

すぐに取り組めないかもしれないが、そういった一文を今後の検討事項として記載をしてもよいと考える。次期計画でも構わないが、IT 化や DX 化によって回っていく管理法人を新しく作るなど、全国で先駆けてやると、かなり面白いことができると思われる。

もう１つは、若い人たちがどこで農業をやっていきたいかについては、地域の教育が重要であると考える。農地を保全する必要性など、学校教育についても一文入れた方がよいと考える。ブランド化よりは自分たちの地域を大事するというコミュニティづくりの面も含まれているので重要だと思う。

■　三井部会長

本部会としては、１つ目は法人化を進めていくことによって、様々な問題が解決できる可能性が高まるというご意見があり、法人化の推進をサポートすることが必要と思われる。しかし単純に法人化ではなく、それに伴う課題も付随するため、十分に検討した上で進めていくような形が望ましい。

２つ目は、大学との連携等において、当事者だけではなく糸島市は、色々な先進的な取組みができる環境にあるため、大学連携を活用していくことがよいと考える。また、糸島市として先進的な取組みを行っているというアピールも含めて何か考えられるのであれば望ましい。これらを部会の意見としたいと思う。

➢ **政策（２）地域経済の活性化　施策①未来を担う企業の創出と育成**

■　野村委員

スタートアップの支援を通じて地域活性化を図るという話だと思うが、個人的にベンチャーキャプチャーの仕事をしていたが、スタートアップに関しては、特に日本は課題が多く、教育や社会構造、労働慣行などいろんな側面でかなり難易度が高い。環境がより良いアメリカですら５年以内に半分は破綻している。やはり時間もお金も無駄になるリスクが高いので、そこを覚悟しながらどこまで進めるかを考える必要がある。

また何を達成したいかということも、もう少し深掘りする必要があると考える。例えば雇用や税収を増加であれば、スタートアップ支援を柱にする必要は全くないと思う。むしろ少しロングショットの取り組みになるので、企業誘致を優先しながらもスタートアップと両輪でやっていく方が良いと思う。

スタートアップの支援を１本足でやるイメージではなく、副次的な長い目で取組として位置付けを明確にしなければならないと考える。例えばスタートアップの企業が今年 80 社できました、100 社できましたとなった場合、それが何なのかという話になる。

スタートアップに関しては全く悲観的で、資金手当の目処が全くない。例えばシリコンバレーがあるが、あれは軍事産業を支えたことやベンチャーキャピタルが発達して、お金が集まった経緯がある。また中国の深圳も香港の資金がどんどん入ってきたという背景があるが、糸島はお金が集まってくるというイメージが持てない。すごいアイデアがあっても、すぐにお金はどうするのですかという話に突き当たるため、あまり楽観しない方が良いと考える。

■　能本委員

おそらくここの起業というのは市町村レベルなので、すごく小さいものであると考える。例えばネイルサロンなどのレベルから入っていると思う。おっしゃったように、幅が広すぎるので、どの部分に力を入れていくような段階みたいなものを書いていたほうがよい。

リスクの高いものに投資しているというようなイメージを持たれるかもしれないし、そのあたりの市としての考えが必要だと思う。

■　野村委員

ネイルサロンはかかる金額は少ないと思うが、収益率で見ると低くなってしまう。リスクに対する収益率が低いという意味では、ビジネスとしては筋が悪い話であり、金額が小さいからいいじゃないですかというのは、少し違うと思う。

■　能本委員

そのあたりを、きちんと書き込んでいくことが重要と思っている。施策を考える立場だと、ついこのような書き方をしてしまうことがあると思う。

■　野村委員

福岡市はスタートアップ支援をやっているが、まちの規模が大きいのでそれなりのことはできる。では糸島でスタートアップをどれぐらい注力してやるかというと、糸島だけでは難易度が高すぎるので、他と組み合わせでやっていくとか、長いスパンで考えるとか、割り切りが必要だと思う。そうでないと若い人たちが夢をくじいて心が折れてしまうかもしれないと心配してしまう。

■　三井部会長

スタートアップに関しては、私も思うところはある。やはり福岡市は、かなりスタートアップ支援に関わっているし、私も研究でそこの業界に入り込んでいるが、やはりプレイヤーの数や支援側の数が圧倒的に違う。

仮に誘致するとしても、糸島市が自前でというよりは、福岡市が持っているリソースと連携をする必要は絶対にあると考える。オフィスをこちら側に誘致するのはいいとは思うが、支援体制の一部は福岡市のリソースを使っていくという立て付けでないといけないと、糸島市に来た企業が困窮する未来がかなり見えてしまう気がする。支援体制については共同と支援というようなことが表記されているとよいと思う。スタートアップについては支援のあり方の必要性を部会としての意見としたいと考える。

➢　**政策（２）地域経済の活性化　施策②地域経済循環率の向上**

■　園田委員

宿泊施設が少ないと意見があるが、実際のところ足りていないのか。

○　事務局

糸島市は交通利便性が良すぎるというところがある。糸島市で昼間遊んでも、30 分あれば福岡市に戻れるので、泊まる場所は福岡市になる。海辺でゆっくり過ごしたい方の宿泊施設が少ないという課題や、民泊についても別の課題ではあるが各地域で出てきているところである。圧倒的に足ないという状況まであるかどうかは分からない。

■　野村委員

今の需要にどう答えるかという話と、潜在的な需要で取りこぼしていないかということは別の話だと思う。ヨーロッパの観光業は、入り込み客数はあまり重視せず、お金を落とす長期のリピーターをいかに連泊させるかということに勝負をかけている。

一方で買い物袋をいっぱい持って、バスでやって来る人たちもおり、オーバーツーリズムという話も出ている。長期滞在のリピーターは、上質な富裕層の人たちが多い。どのような客層の人たちが糸島ブランドの向上に繋がるかという文脈で見て、そういう人たちをターゲットにした方が絶対いいと思う。

そうすると、やはり宿泊施設がないというのは致命的で、そういう人を取りこぼしていると思う。糸島市にはビーチや綺麗なところもあり、ゴルフ場もある。近くに宿泊施設がないので、例えば韓国や中国の富裕層はゴルフをしに来るが、泊まるところがないとそこでゴルフはやらない。別の場所の例えば、フェニックスに行ってしまったりすると思う。宿泊施設は、宿泊のみならず色々と価値の連鎖を引き起こす可能性があるので、そういう観点からも検討してよいと思う。

■　園田委員

今、地域にある旅館は古くなっているとかもあるので、旅館を綺麗にするリフォームなどの補助などの動きはあるのか。

ある程度お金を持っている方が来るような状況を創るとしたら、やはり泊まっていただく所もそれなりにいい所でないといけない。それなりの所を外から誘致してくれば、今ある地域の旅館と様々な課題も生まれてくると思う。地域の旅館にも流れていく仕組み作りがベストだと思う。

あとは市民委員会の意見で、ジャズクラブを作ることや文化的なところの意見があったが、個人的にもそこは大事だと思っている。やはり盛り上がるところは、文化的に面白いものがあるところ

が多いイメージがある。前原の夜は、全然人がいない。先ほど、夜にお酒を飲むという話も出ていたが、泊まるのは、そのあたりを活性化させないといけない。ゴルフする人はゴルフが終わって、みんなでご飯食べて飲んで泊まってということが、一番のゴールデンコースだと思う。そういう流れをつくるようなことがもう少しうまく進んでいけばと思う。

■　野村委員

富裕層の上質の客だけを狙うというわけではなく、そういう人たちが来ると、もれなく一般的な庶民派の人たちも呼び寄せることができると考える。

ただしその逆はできないと考える。B級志向でいくと、上流の人は来なくなってしまう。順番としては上流の人たちを目指して狙っていき、一方で地元の人たちに根差したようなところも一緒に栄えていくようなイメージを持っている。

■　三井部会長

宿泊施設の問題について、いろいろな意見があった。まとめると、トータルの大きなグロスの数字だけを追うのではなくて、宿泊業務も色々種類があると思うので、目的意識を持った形での整備が必要になってくると考える。

またナイトタイムエコノミーや宿泊施設を取り巻く環境の整備にも目を向けるべきだろうということを意見としたいと思う。

➢　**政策（３）観光の成長産業化　施策①地域資源を生かした観光の振興**

■　外山委員

DMOは、現状、糸島市観光協会としてマンパワーが足りてない。主な取組にマーケティングと書いてあるが、そこまでのお金もなく、人材もいない状況である。今までの観光協会とあまり変わることができていない。

みんな変っていかなければならないと分かっているが、理事は全員、別に職をもっている兼業の人で、職員は３人ぐらいしかいない観光協会が、果たしてマーケティングなどできるのかということがある。やはり糸島市と一緒にやっていかないと成り立たないと思う。

観光協会はDMOを取ったからいいでしょという感じにならないようにしたい。観光は糸島としてもすごく重要なので、一緒に取り組んでいければと思う。

○　事務局

観光協会と連携した形でということである。

■　外山委員

DMOの成功事例は、そんなに聞かない。

■　三井部会長

沖縄が観光協会のパワーが強くなっている。民間が古くて行政には若い人おり、コンフリクトが起きている中で調整役としてDMOが入って、うまくいっている事例はある。

ただ、なかなか全国的に見ると成功事例数としてはかなり少ない印象である。

■　外山委員

六本木 DMO にいる友人の話を聞くと、森ビルが入って利益を目的とした団体になっているので動きやすいみたいである。いろんな産業がある中、どこか一企業が儲かるようなことはできず、民活のためと考えたら何にもできていないという現状があると思う。このままではいけないのは分かっているが、お金もなく、資源もない。頭を使えということだろうが難しい。

オーバーツーリズムの話があったが、実際にはまだ糸島では起こってないと思うがいかがか。

○　事務局

市に苦情は入ってきている。海側のエリアで週末の交通渋滞がひどく、地元の農家さんが自分の田んぼ行くのに信号を４、５回も待たないと行けなかったり、芥屋の大門公園では駐車場に車が入りきれず生活道路まで渋滞が及んだりしている。

また、ナビを頼って来られる方が火山に入っていって、いわゆる集落道に入って出てこられなくなり、個人の家の庭で U ターンする、夜中に家の庭で車が動いているような話もある。

案内看板を建ててほしいや、外国人の方も多く来られているので外国語表記の看板が足りないなどの要望があっている。

■　外山委員

看板を立て誘導しても、グーグルマップを見て小さい道路に入ってくるケースがある。

○　事務局

民泊については、地域が知らない間に民泊ができ、突然、夜に騒ぎ出すような所がある。少なくとも民泊をはじめた際に地域に一言あればよいが、そのような法律上のルールはない。そういったケースが少しではあるが、あちこちで出てきているように感じている。

■　三井部会長

オーバーツーリズムの問題は、道路関係のところであると思う。それ以外の後半の話は不経済の話でありオーバーツーリズムというよりは、観光誘致をした結果、地域住民の方に不利益がでている形であると思う。

１つ目の意見としては、観光協会で DMO 化したとはいえ、もろ手を挙げてという話ではなく、いかに連携していくかという所に目を向けてもらいたいというもの。２つ目は、オーバーツーリズムの話が出てきたが、単純にオーバーという話なのか、観光客を受け入れる受け皿としての体制の問題なのか、というところを切り分けなくてはいけないという意見であった。それらの２点を部会の意見としたいと思う。

➢　**政策（３）観光の成長産業化　施策②おもてなし環境の充実**

■　野村委員

誰をもてなすか。客層のある程度のイメージ作りや絞り込みが必要だと思う。日本人の旅行は、松尾芭蕉の奥の細道みたいに、あちこちを移動するというイメージである。しかし、欧米人は１ヶ月ぐらいや夏休みを取って同じところでずっと過ごす。ぼんやりするという休みの取り方をする人たちも世界中にいっぱいいるので、長期滞在型の人たちをターゲットにした観光インフラの整備は形が全く変わってくると思う。

素案では長期滞在型の考えには向いてないと感じるため、もう少し記載を増やしてもよいと考える。私は、むしろそちらの方が糸島と親和性が高いと思っている。今、京都や奈良ではオーバーツーリズムで大騒ぎになっている状況を糸島で見たいかというと、多分誰も望んでいないと考える。そこは目指すところではないという気がする。

■　能本委員

おっしゃる通りと思う。結局ここに書いてあることは、放っておけばみんながやるようなことであると思う。市としてどこを目指すかということが重要と考える。やはり長期滞在の富裕層の顧客を戦略として目指すという形をきちんと銘打った方が良い。

先ほどの海辺で滞在することや、文化の醸成が結局戦略に繋がってくると思う。ここで書いてあるコインロッカーやレンタサイクルは、そこまで戦略として目指さなくても、単純に整備していい話だと思う。せっかくであれば大きく明確に記載する方が良いかと思う。

■　野村委員

長期滞在型の顧客というのは、概ね地元の人と仲良くして、ルールを守ろうとする。ゴミの日にちゃんとゴミを出すなど、そういうことを意識している。旅の恥は掻き捨てというような人と真逆の人たちで、お金を落としてくれるのでそういう面でもいいと思う。

■　外山委員

和歌山の熊野古道も人気があるとも聞く。

■　野村委員

サミットを糸島でやりますぐらいのファシリティがあればよいと思う。夢やイメージとして、そういう視点が必要だと思う。

■　外山委員

姫島においてもホテルや旅館がなくなっているが、もしかしたら逆にそういった場所が核になるのではないかと思う。島であるので合意が必要だが、１つ大きいものができると島自体は盛り上がると思う。市だけでなく県と一緒にやらないといけないと思うが、そういったものが出来ればと思う。

■　園田委員

意見を見ていると、駅や駅名に関することが多い。私も前原駅という名前では分かりづらいと思う。気にしている方が他にもいらっしゃるんだと感じた。おもてなしということで考えると、糸島に来たけど糸島駅がないというのは残念に思う。糸島という名前が先行している状況のため、駅名の変更は難しい状況と思うが、少しの苦労や周りの理解を得られるのであれば、変えることも検討してもよいと思う。変えたからといって明確に良い方向にいくとは分からないが、単純に分かりやすくはなると思う。

○　事務局

駅名の決定権は JR にあるので、糸島高校前駅を造った時は、地元からこういう駅名でお願いしたいという要望を行った。おっしゃる通り、糸島には 10 の駅がある中で、糸島と名前の付く駅が

ないため、糸島という名前と高校前ということも分かるため、期成会で意見を集約して糸島高校前駅を JR にお願いして認めていただいた。

駅名を変えるとなると JR のシステムを全部変えて、福岡市も変えてもらう必要があるため、かなりハードルは高いと思われる。

■　三井部会長

部会としては、市の指針としてどういった観光誘致をしていくのか、どういったターゲティングをしていくのかを示すことが１番大きいところだと考える。

また例えば、長期滞在のインバウンドを目指すことや、姫島に拠点を置くこと、その他に駅名の変更についても話としては上がっていたため、継続して言葉に出していくことの重要性はあるかもしれない。そのあたりを部会の意見としてまとめたい。

➢　**政策（４）企業誘致の促進　施策①企業から選ばれるまちの創出**

■　三井部会長

市として九州大学生を地元にということであるが、私の感覚では自分が行っている大学が所在する市に居たいという思考回路があまりよく理解できない。私は大阪の方だったのだが、大阪の割と辺鄙な場所にある大学だったので、大学があるこの地域に根付きたいという思考回路に至らなかった。

どういうフローを持って九大生を糸島市に残ってもらいたいと考えておられるのか。

○　事務局

九州大学の関連産業、企業、研究所などが糸島市にできれば、九大生をはじめとして、携わる方々の就職につながっていくと考える。九大生が出ていかなくても、学生が求める職が糸島市にできれば、働いていただけるのではないかと考えている。

サイエンス・ヴィレッジに研究産業などが集積し、１年に 50 人の九大生が残れば、５年間で 250 人の若者が働く村ができていくと考えている。

■　野村委員

どういう企業に来てほしいのか主体性を持ってよいと考える。先ほどの観光の話であったが、観光資源を最適化できるようなホテル業者に来てほしいなど、我々としてこういった人たちに来てほしいというメッセージをもう少し入れたほうがよい。

市民委員会の意見で、コストコに来てほしいという意見はあるが、店舗であり企業ではない。日本中、ロードサイド店舗により同じような風景になっている。いずれにしろ企業をどうするかという話なので、そこは少し分けて考えていかないといけない。

○　事務局

今まで市として進めてきたことについては、糸島市の農林水産物や食を生かして、食品関連産業の誘致を進めていた。

そして九州大学の完全に移転したため、九州大学の西側については九州大学関連の研究施設などを誘致していく方針を持っている。

その他で、観光で長期滞在を進めていくからホテル産業の誘致が必要だといったところまでのロジックには至っていないような感じである。

➢ **政策（４）企業誘致の促進　施策②新産業を創出する学術研究都市づくり**

■　園田委員

あまり学術研究都市づくりについて、ピンときていない。

○　事務局

糸島サイエンス・ヴィレッジ実現化プロジェクトが見える形になってくれば、学術研究都市づくりということが市民の皆さんにも見えてくるのではと感じている。

やはり関係のない人や興味がない人にとってみれば、全く何も分からない状況ではないかと思う。

■　野村委員

その先にある目的が共有できてないのではないかと思う。サイエンス・ヴィレッジができましたと言われても、それで何ができるのですか、といった形で、その先の目的がないといけないと考える。

○　事務局

サイエンス・ヴィレッジは、九州大学西側の約 60 ヘクタールぐらいの場所で、歩いていけるような距離の単位で、研究や学生が住む場所などのゾーンに分け、ゾーンに目的を持たせたまちをつくり、時代の変化に応じてまちを変えていけることができる場所である。

そこで九州大学と連携していろんな取組みや新産業などを発展させていき、科学の村というような形にしていこうという目的を持って取り組んでいる。

■　三井部会長

私は大学に身を置く人間として１つある。西南学院大学は理系がないのだが、こういう話を聞くと基本的にやはり科学という言葉がつき、どうしても理系の研究開発主導で創業しようというような支援に見えてくる。

創業者の所属を福岡市だけで見ても圧倒的に文系が多く、理系の創業はまず初期投資もかかり、その後の支援もかなり必要になってくる中で、時間もコストも非常にかかる。そしてその中で数を求めていくというのが、目的と手段において乖離が大きいような気がしている。

例えば東北の Spiber（スパイバー）のような大学発の科学の雄を作りたいのか、もしくはまちとして創業者が多くいるような状況を作りたいのかによって、取るべき施策が変わってくるような気はしている。そのあたりも先ほどから目的が何なのかというところも共有いただけると、地域住民も未来を想像しやすくなるし、応援しやすくなるのではないかと思う。

■　園田委員

いまいち、どういう得があるのかよく分からない。

■　三井部会長

部会としては、企業誘致の促進全体について、やはりどういった企業に来てほしいのかとか、サイエンス・ヴィレッジの話にも関連するけれども、将来像の共有というところをもう少ししていただきたいということを部会としての意見にさせていただく。

➢ **重点課題３　経済活性化（稼ぐ）への取組　施策　“糸島しごと”のブランド化プロジェクト**

■　三井部会長

意見がないようなので一旦、先に進めたい。

➢ **重点課題４　学術研究都市づくり　施策“糸島サイエンス・ヴィレッジ”実現化プロジェクト**

○　事務局

先ほどいただいた意見と同じで、目的、目標、その先に何を見据えているのかというところを明確にして取組んでいくことが必要と考える。

■　三井部会長

個人的にはサポート体制の明確化はしてもらいたいと思う。VC やファンドとの連携などもあると思うが、企業が来るインセンティブが明確ではないので、目的だけ共有されてもなかなか進出しづらい部分があると思う。そこの部分がもう少し前に出てくれば良いと思う。

（基本目標５部会 終了）